

「八代のい草の魅力をより引き出すことができるのか？」

2年次 1組 35号 氏名 吉川 穂乃花

1. テーマ設定の理由

祖父母が、い草農家をしており、小さい頃からい草や畳が身近な存在でい草に興味を持っていた。しかし、昨年祖父母がい草農家をやめてしまった。祖父母のために、い草についてなにかしたいと考えていたため、このテーマを設定した。

2. 探究活動の概要(abstraction)

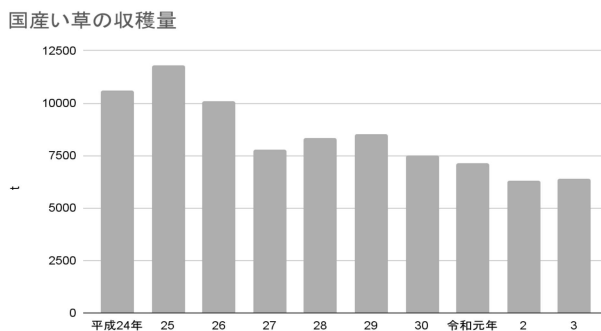
八代の特産品である「い草」に関して、生産量の推移や畳表以外の活用事例について調べた。何かい草を使った商品開発をすることでい草の魅力を引き出し多くの人にい草のことを知ってもらえると考えた。最初はい草のアロマを開発してみようと思ったが難しいことが分かり、い草パンの開発を目指すことに切り替えた。3月末には協力企業の支援のおかげで清流マルシェにて販売できそうである。

3. 調査内容（探究活動の詳細）

ア) い草の生産の現状

い草の生産は八代でも年々低下（下図参照）。主な理由は住宅の洋風化に伴う畳の需要の減少や外国産の安価な畳表の輸入である。また、い草農家の高齢化や後継者不足もい草の収穫量の低下に影響。

国産い草の収穫量のグラフ↓（農林水産省）



イ) 八代市役所の職員への相談

八代市が関わりたい草を使った商品開発では、い草プロテインでかなり話題を呼んだそうだ。他にもい草のビールなど食品関係を多く紹介してもらった。調べたらインテリアやヨガマットなど様々な使い道でい草が使われていることがわかった。商品開発ではい草の香りを活かさないかと思い、い草アロマオイルの開発を検討することにした。

ウ) い草アロマ開発の断念

アロマの教室を開かれている先生にい草を使ってアロマを作ることができないかの相談したが、過去にい草でアロマを精製したが、香りがあまり良いものでなかったとのこと。また香りもあまり長続きせず、い草のアロマ開発はかなり難航すると助言をもらった。そこで、アロマとい草を組み合わせるのは難しいという判断をし、別の方向でい草を使った商品開発を目指すことにした。

エ) い草を使ったパン開発への過程

い草と食品の組み合わせで何がよいかを考え、悩んだ末に以下の点から「パン」がよいのではないかという話になった。

【パンとい草を組み合わせるメリット】

- ・パンは子供からお年寄りまで好きな人が多い
→ターゲット層が広い
(魅力をより多くの人に伝えることができる)
- ・安価なので、手が出しやすい
- ・い草の栄養価が高さを活かせる
→パンと組み合わせることでより健康にもよいパンが作れる。

実際にどういう目的で商品開発をしたいのか、開発をしたあとどうするのかについても検討した上で、八代清流高校の近くにある「虹の村なないろパン工房」に、い草を使ったパンの商品の共同開発の相談に行ったところ、快く引き受けてくださった。

オ) い草を使ったパンの開発

現在、食用のい草パウダーを用いて「い草パン」を開発中である。なないろパン工房の方と話し合った結果、メロンパンと惣菜パンなどで進めていくことになった。メロンパンは小さい子供食べやすく、素朴な味だと思うので、い草の風味も感じやすいのではないかと思い、メロンパンにした。試作を重ねメロンパン→メロン生地：い草パウダー 4%

パン生地：パン生地 3%

の分量で作ると、ほんのりお茶風味で優しい味のメロンパンになった。

4. 探究活動を通しての気づきと学び

探究活動を通して多くの方と対話する機会があり、その都度、自分の考えを伝える良い経験ができた。なかなかうまく行かず、行き詰まったこともあったが、周りの人の意見の聞いて議論したり、実際に話を聞いてみたりと、普段だったらインターネットで調べて終わりのことも、更に踏み込んだ事ができた。将来は、まちづくりに関する仕事に携わりたいと考えている。今回、八代のことに関わる探究活動ができてとても良かったと思うし、将来への成長へのとても大きな糧を得ることができたと思っっている。

5. 今後取り組みたいこと（次の課題）

春に行う清流マルシェでの販売も予定している。今までの探究活動を生かし、引き続きこの活動に取り組むたい。また、八代の特産品の魅力について知ることができたので、校外での発表を積極的に行うなど、八代以外の人にも八代の特産品の魅力を広める活動も行っていきたい。

7. 参考文献

- ・八代地域のイ草製品 - 熊本県ホームページ
- ・令和3年産「い」の作付面積、収穫量及び畳表生産量
- ・いぐさの食品 豊富な食物繊維と農薬に関して 他